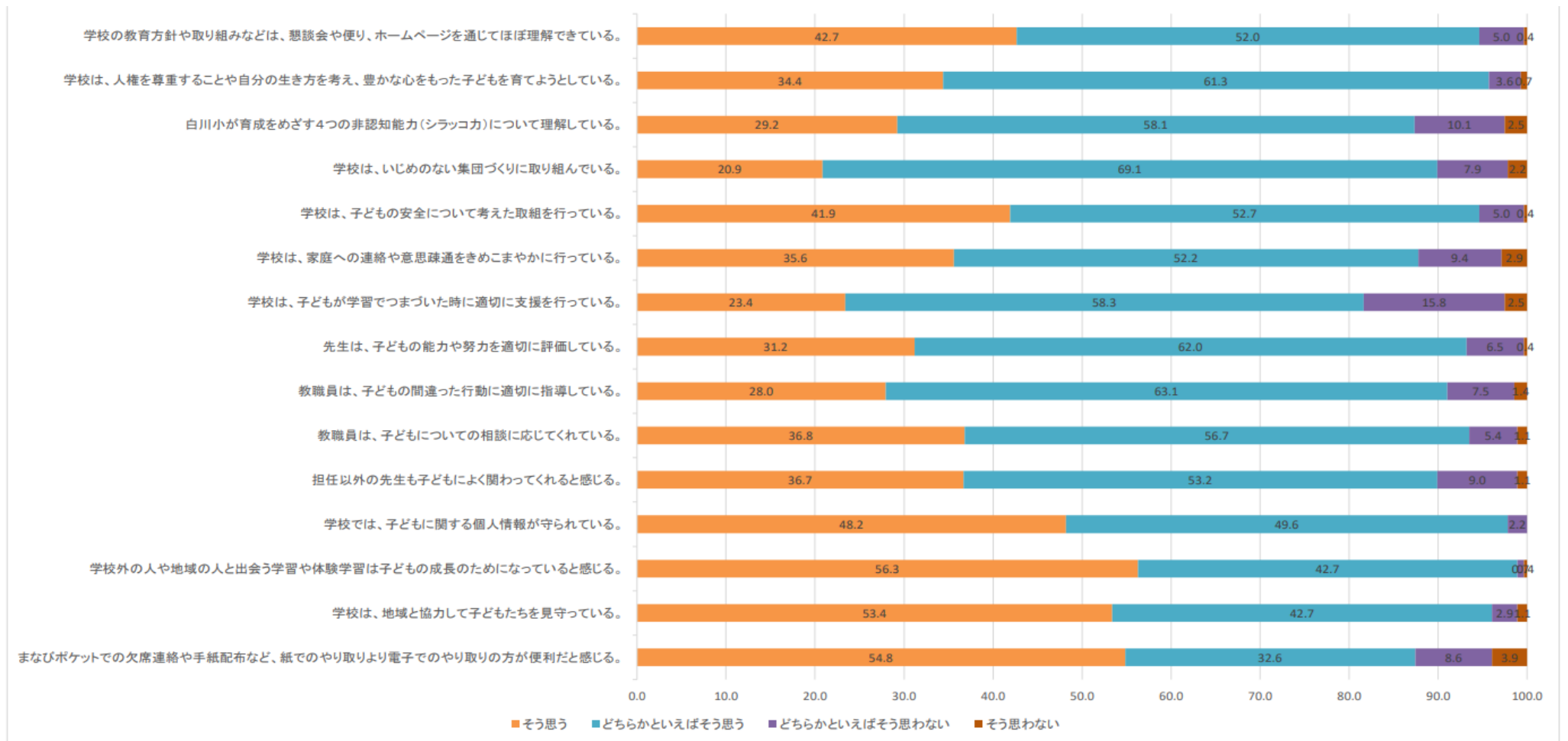


学校教育自己診断の集計結果について

早春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。また、平素は本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。さて、保護者の皆様のご協力を得まして、学校教育診断のアンケートを実施することができましたことを心よりお礼申し上げます。ここに「学校教育自己診断」の集計結果がでましたので報告申し上げます。今回の結果は、今後の学校運営に生かしてしていきたいと考えております。



アンケート結果について

昨年度に引き続き、どの項目も肯定的な意見が80%以上を占めている回答となりました。特に、「学校外の人や地域の人と出会う学習や体験学習は子どもの成長のためになっていると感じる。」と「学校は、地域と協力して子どもたちを見守っている。」の項目は、肯定的な意見が96%を超え、まさに学校教育目標にあるように「地域・家庭とともに」教育を進められていることの自信を持つことができました。これも地域、保護者の皆さまから日々ご理解ご協力いただいている賜物であると感じます。誠にありがとうございます。

一方、項目の中で最も肯定的な意見の割合が小さいものは、「子どもが学習でつまづいたときに適切に支援を行っている」の項目でした。ただし、昨年度は肯定的意見の割合が約80%に対し、今年度は82%の微増になっており、この数値が少しでも伸びるよう今後も検討していく必要があります。本校の教育方針としては、「先生にしっかり教えてもらう勉強」よりも「子どもが自ら学ぶ学習」を進めております。教職員からの適切な支援はもちろん必要ですが、子どもたちが自己の学習のつまづきに自ら解決策を選んで学び続けられるよう研究を進めてまいりたいと思います。

教科担任制について

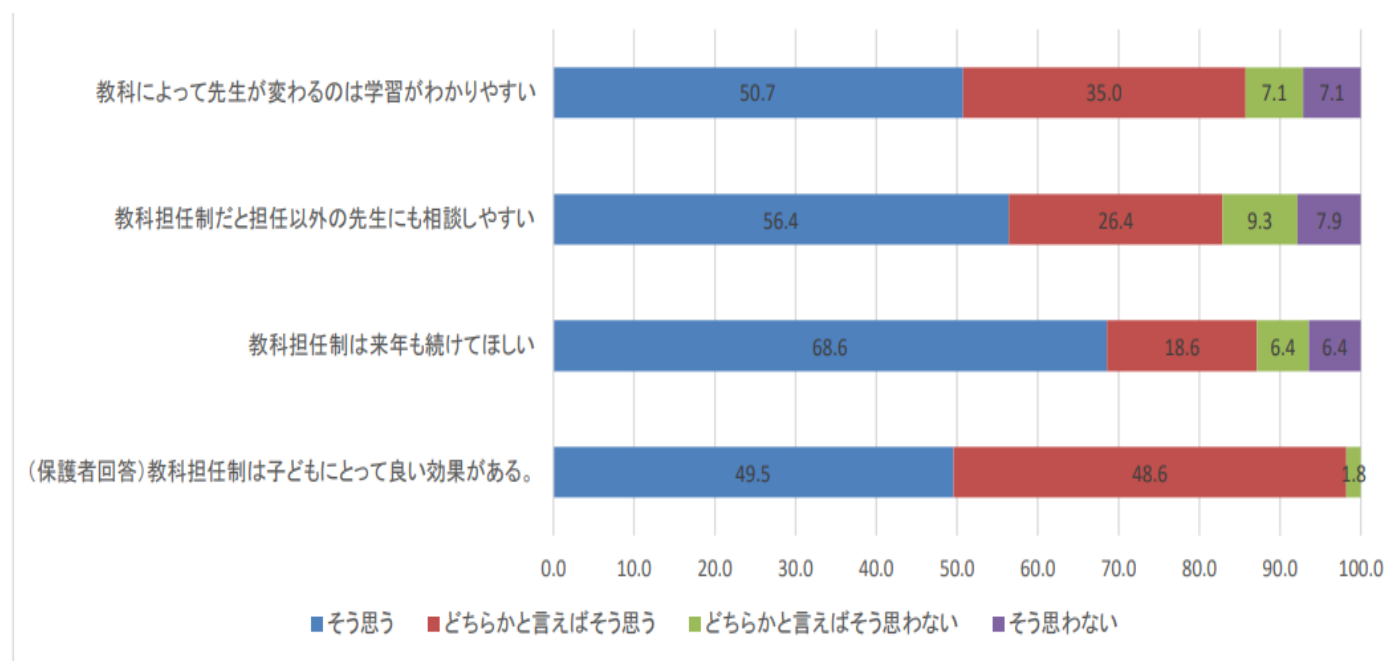
今年度の大きな改革の一つとして高学年の教科担任制を導入し、そのアンケートを児童保護者共に実施しました。

右図にあるとおり、児童保護者様ともに肯定的な意見が多く、一定の成果があったと考えます。

児童には記述式のコメントも記入してもらったのですが多くの児童が「先生によって違っておもしろい」「先生が得意な教科を教えてくれるからわかりやすい」等の意見があり、安心しました。また「中学校に慣れるために小学校でできてよかった」との意見もあり、小中ギャップの軽減にもなったと感じます。

一方で、一部の児童にとっては「毎回変わるから不安」「どの先生に言えばいいかわからない」等の意見もありました。これを受け、どの教職員も児童が相談しやすい対応と、教職員間の意思疎通がより一層必要であると感じました。

本取組みは、児童の学びやすさ、学力向上への効果だけでなく、教職員が受け持つ授業が減ることによってゆとりと質の向上にも効果があることから、今後中学年での実施も視野に入れ検証を重ねてまいります。



自由記述欄について

多数ご意見をいただきありがとうございました。「学校教育をよりよいものにするために、白川小学校の良いところや、こうすれば良いというご意見を教えてください」という趣旨のもと、ご意見の一部を項目ごとに要点をまとめて紹介するとともに、現時点での学校の考えを述べさせていただきます。

○教職員について

- ・熱心に対応してくれている。
- ・先生同士が仲良く、地域行事にも積極的に出席してくれている。
- ・管理職の先生と子どもや保護者との距離が近い。
- ・温かい先生が多い。

⇒教職員については熱心で信頼しているというお声を多数いただき、教職員一同大変励みになります。ありがとうございます。結果に慢心ならず今後も教職員の育成研修にこれまで以上に注力し、教職員研修の充実等を図ってまいります。

○行事等について

- ・運動会のリレーがなくなり残念。復活させてほしい。(複数)
- ・地域も学校も行事が多くありありがたい。
- ・子ども中心の行事が多い。
- ・行事ごとに保護者の意見も聞いてほしい。

⇒行事に関するご意見の多くが運動会の内容でした。運動会実施後すぐにご意見をうかがうべきでした。今後は行事後にご意見いただけるよう対応してまいります。特に、リレーについてのご意見が多くありました。学校としては「リレー」という種目に特別感はなく、一部の児童だけがリレーをし、それ以外は綱引きという従来の種目から、学年全員が取組める種目への切り替えることを重視し変更いたしました。児童に趣旨がきちんと伝えきれなかったことが反省です。リレーがしたいという児童の思いと、全員で取組める学びの両立を考え、次年度の種目を検討してまいります。

○OICT 関係について

- ・子どもの端末の使い方を見直してほしい。家で youtube 等を見ており、困る。
- ・まなびポケットの通知が来ない。
- ・まなびポケットで連絡する内容を精査してほしい。忙しい時間帯にたくさん来て困る。

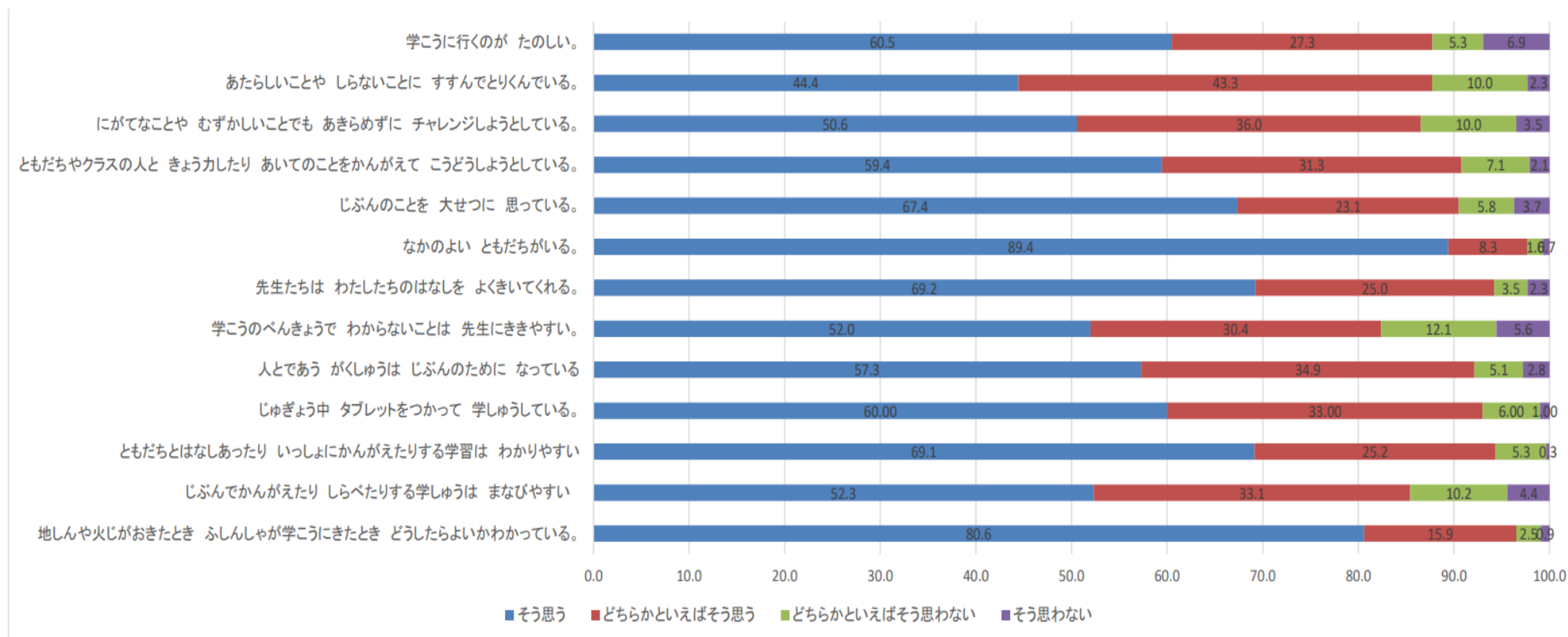
⇒まなびポケットの通知等の不具合は、まなびポケットを運営しているNTT及び、教育委員会へお伝えいたします。連絡の頻度についてはご迷惑をおかけしてすみません。今後、重要なものはわかりやすく、軽微な連絡は急いで確認されなくてもよいよう伝え方を検討いたします。児童のタブレットについては、校内でも課題意識を持っておりますが、昨今の状況から「与えない」「禁止する」方向よりも節度とルールを守れる子どもの育成に注力したいと思います。

○その他

- ・遠足は継続して行ってほしい。
- ・シラッコができてから学校が明るくなった。

⇒その他多数の貴重なご意見いただきありがとうございます。ここには掲載しきれないことも教職員間で共有し、真摯に受け止めたいと思います。また、PTA（地区委員や集団登校を含む）に関するご意見も多くありましたので、内容はPTAにもお伝えしてまいります。

児童対象アンケートについて



保護者様のアンケート同様、どの項目も肯定的な意見が 80%以上を占めている回答となりました。特に、「授業中タブレットを使って学習している」「友達と話し合ったり一緒に考えたりする学習はわかりやすい」の回答は90%以上が肯定的な意見で、本校の取り組みが児童の意識につながっている結果となりました。

一方、「学校の勉強で分からないことは先生に聞きやすい」の肯定的意見の割合が他の項目と比較すると低く、これは保護者アンケートの「子どもが学習でつまづいたときに適切に支援を行っている」の結果との関連性も考えられます。聞きやすい環境を醸成することはもちろん必要ですが、学びの在り方を「先生から教わる」のではなく、「自ら学ぶ」学習形態へ切り替えていくことが本校のめざす教育であり、そういった意味では、先生に聞きやすいという意見よりも、友達と話し合ったり一緒に考えたりする学習はわかりやすいという意見が多いことに子どもの成長と主体性を感じます。また、先生たちは私たちの話をよく聞いてくれる」の項目は肯定的意見が約95%程度あることから、多くの児童が教職員と児童の関係性は相談できる関係性であると言えます。

ただし、児童アンケートについては全体の割合よりも「そう思わない」と回答した児童一人ひとりに焦点を当てて寄り添っていく必要があります。このアンケートを活用し、今後もどの子にとっても安心して学べる学校づくりを進めてまいりたいと思います。